

あとがき

外国語教育研究センター准教授 町 沙恵子

この度、大学教育研究フォーラムも節目となる第30号が刊行されました。

本号の特集では、2026年度の環境学部設置を目前に「環境学を学ぶ意義」と題して、環境学部設置準備室の二ノ宮リムさち先生と小林潤司先生、そして全学共通カリキュラム運営センター部長の浅妻章如先生の座談会が開催されました。キリスト教を基盤とし、リベラルアーツを推進する立教大学だからこそ環境学部を設置する意義があること、さらには環境学を全学共通科目として開講することで、多くの学生が環境問題に向き合い、意識を高め、持続可能な社会作りについて学ぶことの重要性について論じていただきました。

また本号では、元全学共通カリキュラム運営センター部長である佐々木一也先生（本学名誉教授）に特別寄稿を頂きました。1990年代初めの大学改革を機とした立教大学におけるカリキュラムの変革、そこに携わってこられた教職員の「熱気に溢れた運動」、そして現代の大学教育の在り方についてご執筆頂きました。佐々木先生の熱い思いの溢れる評論に、私自身、立教大学のリベラルアーツ教育に携わる教員として、意識を改めるきっかけとなりました。

ありふれた言い方ですが、大学の教育は社会の動向やニーズに応じて常に変革が求められます。2020年の新型コロナウイルスによるパンデミック以前は、日本の大学関係者の中で、大学教育をリアルタイムで遠隔で行うという選択肢、そしてその術を真剣に検討していた人は少数だったことでしょう。また今日では生成AIの目覚ましい発展により、倫理面に十分配慮した上でそれをいかに効果的に教育に取り入れるかの議論が活発になされています。社会そして学生の多様性もよりいっそう広がっていることを日々実感します。立教大学の教育の基盤である全学共通科目が今後とも安定的に、そしてより充実したかたちで提供され続けるためには、刻々と変わる社会の状況を冷静に見極め、時には挑戦的な試みをしていく必要があると感じます。私は立教大学の専任教員として着任して今年度で2年目ですが、今後ますます新たな取り組みが行われ、自分自身もそこに貢献していくであろうことを思うと、楽しみであると共に身の引き締まる思いがいたします。

最後になりますが、本号へ事例報告および授業探訪として寄稿していただきました先生方に感謝を申し上げます。そして全カリ委員の任期を終えられる先生方、運営にご尽力下さりどうもありがとうございました。今後の学内での新たなご活躍を祈念しております。

まち さえこ